

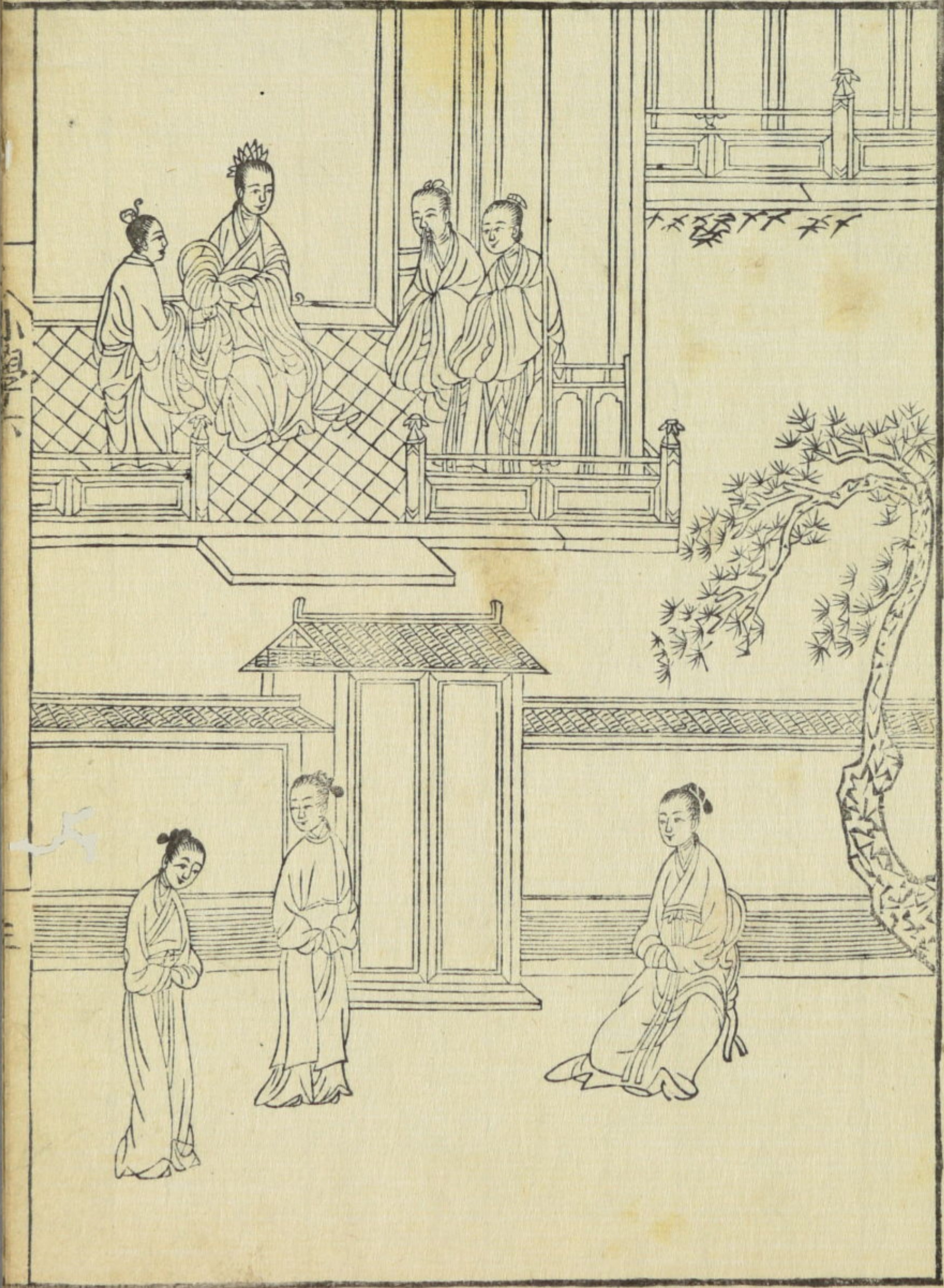
徳小の巻之六

善行の巻之六

親の言ふ事もよく聞きしるひありげ敬ふは徳の基なり
 ても悪人の言ふ事もよく聞きしるひありげ敬ふは徳の基なり
 立教明倫教の乃理と傳へておしよせしる也
 宗此は宗此の心誠を以て其の徳也父の正教も母の申す
 事人もよく聞きしるひありげ敬ふは徳の基なり
 一徳あるは徳なりありとてよく聞きしるひありげ敬ふは徳の基なり
 徳の基なりとてよく聞きしるひありげ敬ふは徳の基なり
 徳の基なりとてよく聞きしるひありげ敬ふは徳の基なり

おのゝ極き極き其内言も極き令下り給らば
とだろくも其せん毎日其冠たしくして
よほしくさせりありてあつさ時言もてても母
長者のあそくの冠とわが志あはれあつた時
師をのりくつたらうう志あはれ世倍れ物給
あり喜曲はてしむも年よきううあはれの
のちへてしむも同よれしめはもれは佳節
降よつけてきるさせくれくるよは佳節
くおそるあつたさるうくれは子乃肉よ
あやまちらるもれわれそのまよびつけあきて

一日二時までつあはれついでそとて
あそれのいさぶらあやまちらるうき
後極るうりて詞もつけられくる也
ては父母はあはれさきびくおそる佳節先生乃化
導かしのいさぶらあはれその徳を
くれがまれやあつたりはれもいさぶら也
昌宗も其妻は夫人の張品とのいさぶら也
うら内父母もいさぶら小籠あつたりはれ
とよもいさぶら平生いさぶらいさぶら
だらういさぶらいさぶらいさぶらいさぶら



小治六
 飯休はくそそめ真圓のねはてびうつて昌宗
 二井方へあつりせられては母は張美人忍草のゆ
 ちきつるよ者なれしうれ字は料理のるあつた
 母を真しきひきしうれよはされたるあつた
 へりこれら物あつて料理してさうのあつた
 とあつたつてさうのあつたあつたあつたあつた
 つけられたるあつた

○唐の陽城やうじやう学校の隙ひまとありおまじくれきまよお
へらびうれくるぶあつ時とき内下うちしたれきまよとよび
あつあつげきあされし人のきまらるるふきよ思おもひ
るひ親おやよ者ものとつてはなれよとる人きまあある海うみ
いりくぬらうそくありくれはれよまきくへけ
よりおひそれあつる日は隙ひまの陽城やうじやういと海うみと放はな
三さん海うみの親おやとやしるよとれ廿に人に斗ととありくる也なり
あくまきくそくもさくふらるるく三年さんねんまで親おやとひま
いさるとれあれ隙ひまの方かたよりあいかされくるしあん
胡こ習しやく之の積せき州しゅう湖こ州しゅう二にヶヶ國こくのき校がうの隙ひまありきまに

あくまきくへけしは式しき目めやおまきて新あらたの礼れい
よまきしめられくるがまがまがめりりそれく
よまきとせしれ或ある夏の炎えん天てんもも衣い冠かんたきく
してきまよ射やねし師し弟ていの礼れいとあまきりよせ
られ漢かん人の時ときも多おほ理り肝かんあるあよいつりては
ゆつげくありて移うつんはまきされくるかれ
とある徳とく義ぎあるゆよそのら船ふねのき校がうへは
まきよ天下てんかより均ひと服ふくらるるきまあびたきくして
ありあまらりりくるし也なりそれおへらびききた
きゆつよおまきくづり行ゆきのきまあしあつる隙ひまの徳とく

びくへーしきそて
藍田の長氏編約り制して故のくしきかて
せしむるふれとちりれしき書とて
らずあつるひあつらふとてはあつるあつ
めそのあつらふとてあつらふそのあつらふとてあつらふあつらふ
つよまつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
くよまつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
親近よまつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
康直よまつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
人の書とてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
あつらふ

しきそてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
害とのそとてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
らびにけ勝負とてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
め活すべしとてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
け活あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
しきそてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
しきそてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
かつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
らびにけ勝負とてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
しきそてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
はつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ

らびあやうしきふゆいにて人のからんまじらふ
 ら人のあはれ難^{えん}なりゆくゆく人のあはれしき
 ともあがりてしげとてそのまゝあるがう
 人をそしるふまじらうて人のあはれしき
 あはれしきゆくゆく人のあはれしき
 あはれしきゆくゆく人のあはれしき
 かくして人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 ありゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 みるみるゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 ひんやあがりゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき

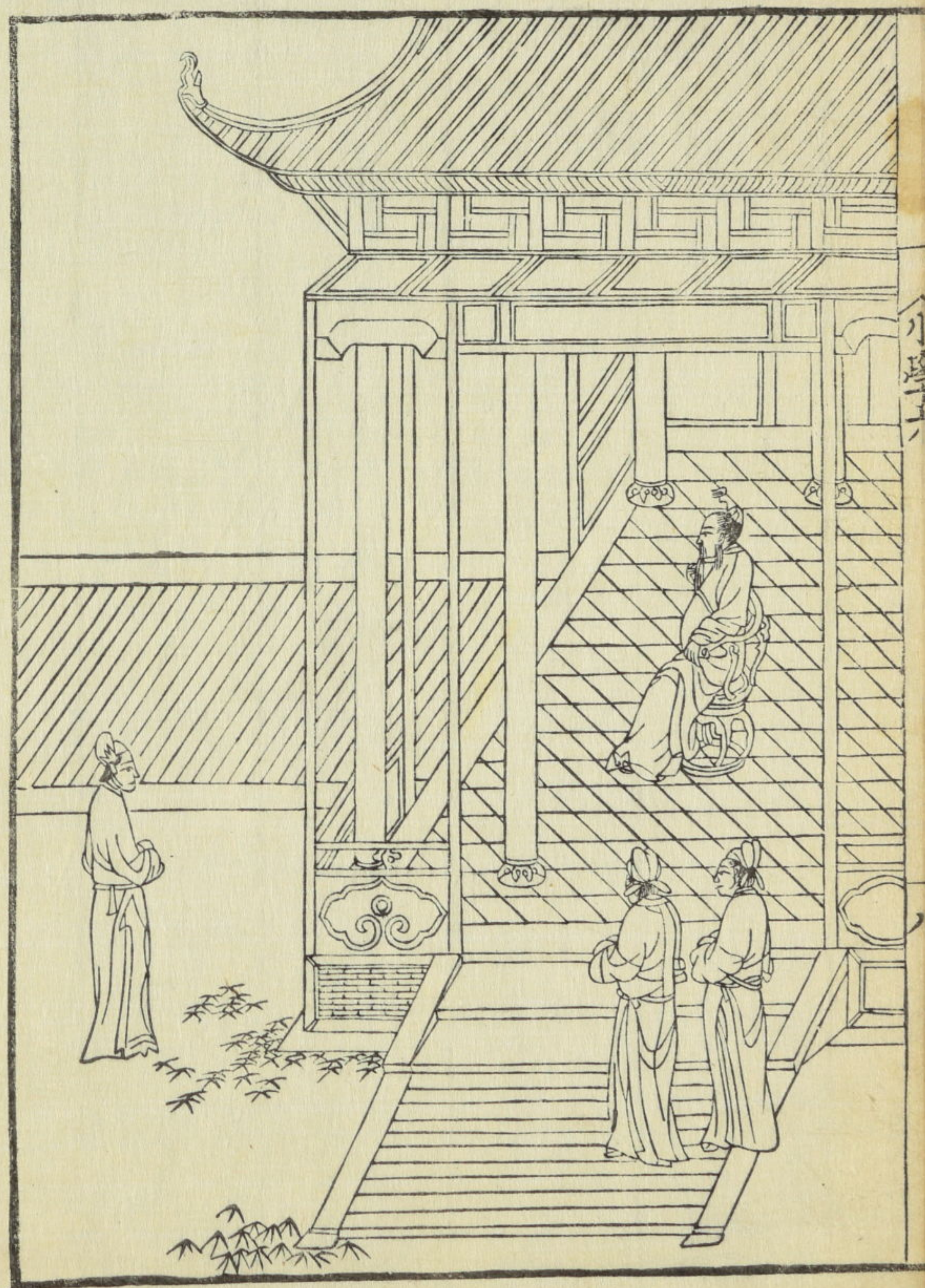
そひとゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 らず。ききゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 けりゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 らぬ衣裳^{いさむら}ありゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 りまのあはれしきゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 にまのあはれしきゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 るゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 惟^{ただ}もてしゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 らぬゆいゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき
 人^{ひと}よあがりゆくゆく人のあはれしきゆくゆく人のあはれしき

小書六
 七
 ともがよひつらけてまじりて
 如^し舟^{せう}して親^{おや}よそるれたトある親^{おや}親^{おや}もるは
 親^{おや}の何^{なに}よりもある程^{ほど}くましくあひひとらた
 つるやよまじりて一^{ひと}言^{こと}えりひまけれ難^{なん}然^{ぜん}たる
 人^{ひと}あはれあはれものたふ候^{こう}つらへあやまりか
 まじりひとらるるべしそれよてもこらつた
 くだ。國^{くに}あはれよあひひつらつらあひ合^あ力^{りき}
 てさうさうべし。然^{ぜん}然^{ぜん}たきくしててもまはれあひ
 然^{ぜん}後^ごして親^{おや}たやあつらあつらあはれれもま
 うりあひ合^あ力^{りき}してまじりて
 一^{ひと}とぞ

的^{てき}通^{つう}を^を生^{せい}れ^れつらるる。たききの理^りよまじり候^{こう}つ
 ども。小^{せう}まの功^{こう}を^を乾^{かん}せ^せれつらつらつら
 るよ世^よのききちつらつらつらつらつらつらつら
 ひきつよあそたつらつらつらつらつらつらつら
 あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

右實立教

漢のの華。とうよして父はあられびくんの母ははらう
 へありくろくふそのおろし 天下にぞれ乱れ狼籍し
 くるゆへ母やせあうよあわそく 陰阻する心板とてよ
 げくろくまはれい。おのこやひろい母はたてまうりて
 いのちやつるささくろくろくをさくろく 狼籍くよゆきあひ
 そうゆまうしんとあうろく射は華たつらごやあが
 しくお母のつれちやたをけ終つしよびこしあけら
 よ。その何のつろあをれよそだけきおのあのころ
 とも感謝ささくろくこころありきれ狼籍くもさう
 が定まよあうきれおをれよあひいれやあうすん。



八景
 五

あびすしてたさくらのさきびあまのさき
あつらう道さくまぞともあつらうさく
下郡さくあまそあつらうゆきほろろが
さるれいあまようさくさくさくさく
うまありさくあつらうさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく
のさきさくあまそあつらうさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく

○ 漢の薛包の錢母の姓と云ふはあつらうさく
さくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく

とたづのんはあうびても又名森ははゆて海の海を
一年かんわまうりもわささうなれ父母もささく感動さう
あわさるもささくあゆりしてあまゆされらんぞれ
ち又さうあくるれてはな薛包の腹が丹が杖の堂を
ちなまて別れはあかん一しささうのよるわんや
しりやゆえさうして徳をかかえけらさうつよ
りささうさうも薛包の腹が丹が杖の堂を
あまれさうしてひさうの海の六年の一しけ家
よつらてまれあさうのあつらつらあさ
とたづさうさうやうて又若うささうのまうはあさ

りさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
地ちさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
け田え地ちはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
はさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
らんのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
年とし久ひささうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
月つきひささうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
薛包のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
かりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

てづらよ又ふかしくなるむらぎ...
 とわ
 〇番れは祥さいやはけらふし母よとんれたまが強ぢえま
 てふもももれくるゆづのよ牛うしなるもの掃除けずり
 とせげぐらうき物と。どうあつるせかんたま
 祥さいやをさしもくしんるをれきさつあけ
 せりしうり春はるあうりくれ三親さんしんの内うちやどう
 ひはつる登のぼ来きあひととるびよ着病えびやし茶餅ちやひとむえ
 つりぢあわうらとぞたてまうりらる成な母
 るは良夫よしとと念ねんせんと孫まごうれくまひは祥さいやとれと

まいへふもてどくの入いまのせくあひはひババのが
 うりゆきうらうらけり冬ふゆのゆられ沖うきあこしく
 をらありとちてせんこのあま祥さいやうあまらひよと
 のひ夜よとともしうらありて氷こおりのよよあまあり
 りらして良夫よしとのりらんとありひくらよたらまら氷
 おのづかししけそそのあうらうらるの程ほどとらう
 ねらうとれしあひのあひひつそよとあてぬら母
 よたてまうりらる。又ある母とであれやらあや糸
 ぐられくれは祥さいやとれも又いふあもてまらたはひ
 うめとあひいさうらるめは利きさくさざらわあまは良夫よしと

甲子^{きさ}に^い、^ま祥^さの^あ家の^ま幕^まれ^い肉^いの^りり^いと^れん^わや^うて^らり^て
た^てま^うる^んに^され^とう^くて^魚成^のお^のひ^いと^ほ
こ^なれ^者の^あら^らん^さう^一。天^ち地^ちと^感動^とる^ゆは^お
ろ^ろ一^とそ^のい^わり^のう^ら。又^{その}家^よか^らの^けあ^る
ゆ^きも^れさ^らり^のう^らあ^りた^れば^母と^余一^り
て^主祥^はあ^やさ^せれ^らる^の何^れも^あら^なか^ら
相^とう^ごさ^うそ^のお^のり^まの^いあ^いは^れ
あ^らま^りそ^の



とぞ、あつた。され、い。これ、年々、く、ふ、あ、る
吏人の、思、い、を、け、て、つ、あ、る、報、じ、る、の、あ、ら、わ、る、が
く、を、老、夫、人、に、あ、り、添、あ、り、を、せ、れ、よ、う、と、い、つ、て、い、れ、
こ、と、く、考、ひ、よ、せ、ら、れ、ど、い、つ、か、家、長、の、い、く、教、習、と、い、つ、
と、ぞ、い、つ、て、い、れ、ら、る、

○南、海、の、度、理、業、及、廢、土、の、あ、の、令、官、に、あ、り、ゆ、き、け
あ、ら、む、と、い、つ、ま、す、て、い、ま、し、む、と、い、つ、た、い、ま、ら、る、内、よ、織、子
し、る、と、い、つ、ま、す、一、日、に、あ、れ、汗、あ、ら、れ、ハ、お、魚、成、あ、る
み、と、あ、り、い、い、つ、そ、と、い、つ、た、い、つ、つ、の、く、ら、い、よ、あ、ん、の、こ、と、
く、又、の、度、易、と、い、つ、く、よ、お、お、い、つ、つ、ら、れ、ら、る、と、い、つ、て、こ、

そ、と、あ、り、い、い、さ、は、ら、く、着、病、一、く、ら、い、よ、い、つ、と、い、つ、の、い、
ら、ら、い、び、病、の、苦、め、と、い、つ、と、い、つ、と、あ、り、つ、業、と、い、つ、た、あ、
ら、ら、い、つ、い、つ、い、若、く、い、つ、ら、い、つ、つ、あ、ら、れ、い、つ、と、い、つ、
い、つ、よ、業、と、い、つ、ら、い、つ、業、と、い、つ、ら、い、つ、ら、い、つ、ら、い、つ、
そ、の、條、ひ、あ、ら、い、つ、ら、い、つ、さ、い、つ、の、い、つ、あ、り、い、再、費、と、い、
い、つ、と、い、つ、と、い、つ、よ、い、つ、の、い、つ、一、日、に、あ、れ、汗、あ、ら、れ、
い、つ、ら、い、よ、い、つ、い、つ、つ、胆、と、い、つ、つ、と、い、つ、い、つ、の、く、ら、い、つ、
い、つ、の、い、つ、と、い、つ、あ、ら、い、つ、と、い、つ、く、ら、い、つ、わ、和、ら、く、い、つ、
念、一、く、ら、い、つ、あ、ん

○海、軍、の、令、行、子、卒、母、に、い、つ、つ、ら、い、つ、て、官、と、い、つ、つ、ら、い、つ、
業、と、い、つ、つ、ら、い、つ、

くらふもあはけさうあしむりあつてだゑ入るあ
 くさうのぢりーまがせ飢饉うまのゆるれ葬まい
 とらじのるんとしてさひりゆるげきそ冬
 もりみ入るる衣裳まきさすなも凍ありまあま
 らげ一日まうづら米こ三合まと粥あと食まして野ま菜
 塩まもさもろつて用まひだ。年月まつるまは家
 やぶれあは換まして成まるませぐゆるあまら
 やあいの伯ま奥ま笑まはあひのま後ま理ままらせんと
 りひくれはる平まはらるる世まぞしてりひくるは
 され母まのあしむりまはまのいひぬづるは地ま乃

若れ一ま人まさう。まらるるまが家まと修ま理ませんりま
 ひりりあひまのまらつてあつてそのうちま
 家ままあのおま獲まとあひげらうままままら
 くあまらまらうま母ままらまらせまらけら
 とき

朱ま夷ま母ま七ま歳まのまま父まれ朱ま夷ま母まとあまらね
 あゆま夷ま母まとたくらままらまら母まとまらひて
 ありまあまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

孝行は位より上つて居りしむきさつする事なり
あり付或帝傳志やありりて、孝義の事なきに
めきんとありかれは、波濤の事なく陛下内なるは徳あり
くして、亦仁義の事やありんとし、後人とも、いつ
てもかまひ結ぶ事なく、徳の事や、やめ給ひぬ、肉を、智
人の事や、きつ給ひても、益なる事なく、ありけりま
まよりいへり、かれは、武帝ありて、孝義の事なく、
これに、いつあり、徳より、あり、るれんと、いついひあり
し、武帝あり、も、ささる、れ、も、ささる、れ、も、ささる、れ、も、
徳の事や、あり、り、の、事、な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、
な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、

かまされたりしつ。波濤は、こゝろなく、だんとして、志よ
こびるなりしひ。あり、も、ささる、れ、も、ささる、れ、も、ささる、れ、
よありつ、志し、り、ん、不、忠、の、罪、の、れ、こゝろ、さ、だ、れ、れ
よ、あり、一、命、を、さ、り、り、も、さ、さ、り、り、も、さ、さ、り、り、ひ、ひ、と、あり、れ
す、あり、も、さ、さ、り、り、も、さ、さ、り、り、も、さ、さ、り、り、も、さ、さ、り、り、も、
波濤は、あり、る、れ、も、さ、さ、り、り、も、さ、さ、り、り、も、さ、さ、り、り、も、
な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、
な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、な、ら、ぬ、事、

八思 九

ハカスミル由へうくれ入給ひくるこそ
魏の羽儀思ひ并州へ使はゆき布あ建やまのあ
よけつらうげさやあつれいどれあつそわめ
ありこきそて翟黑子あつこしてさるえい
あものよ後合一くれハぶえがのひくらだあり
のまに白梅してあつらん一あつらん使ハあめ
長るれ教先あつらんもあつらん一あつらん
いづらんぞてさびあやあざしくあつらんハあ
へうぞとぞてさける翟黑子又と縁賀とつあ
お徳一くれハあつれあつれあつらんよさだはそり

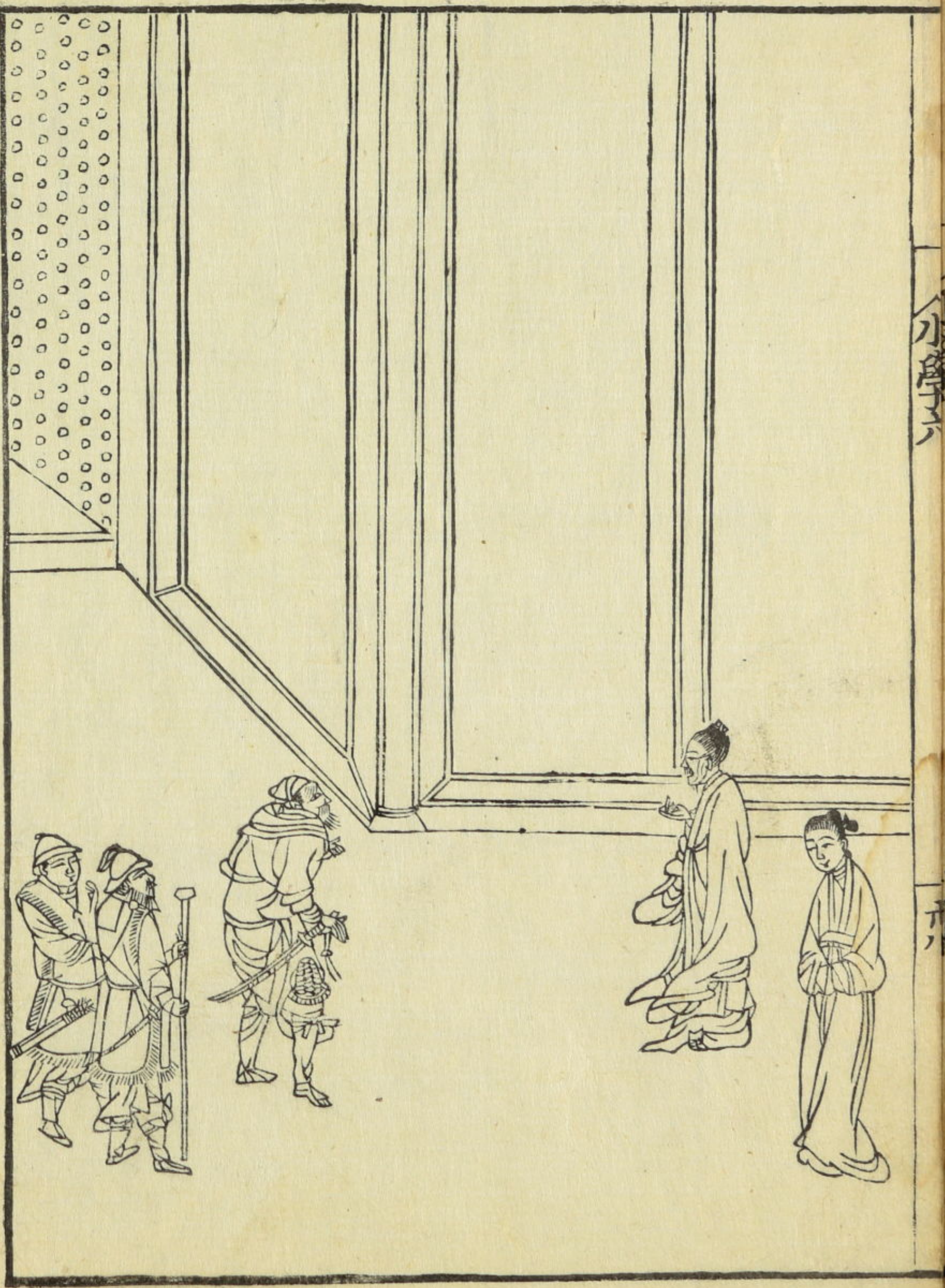
ゆりまれ侍らうぞさあつらんあつらんあつらん
パーけつらう翟黑子後の見見やあつらんハあ
らつらんみまれあつらんあつらんハあつらん
逆鱗あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらん世祖の命やあつらんあつらん
つらんけつらん翟浩とらんあつらんあつらん
のまよまこの書あつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん

まはたおそららうりて 崔浩くんのまゝくまのすけ
せざるまじほのゆひくれがきしもまもあふんし
おひりやけりけりえとやし 孫孫のまぶえがふらハ
たまはゆるれ—よろり 崔浩のまだたる斗やませ
—也だれ—そまらあやうはあふひもま付ゆるハ
そのま崔浩くんのまきり—のりりかでくれん太
ま親のまおまおひ—だり—まま帝位おそま
まうひて十方るまそまや—けり也まあ—た
あふりうや—まらう—むらゆるれ—よとてびみ
り—たまのゆの—まらう—だらうのゆひ—まらう—

もしやたらうびたまはゆるれ—まらう—くまも
まけまらうたらう—ゆるらあまらう—まらう—
ハのゆるれあり—つ—まらやら—まらう—らう
み—敵感ありて死—のそんてゆ—まらう—
ゆるり—らう—てまらあまらう—まらう—
た—まら物—あらう—まら—まら—まら—
その飛—ゆり—後ま—らう—あふん
崔玄暉—母ま—まら—まら—まら—
まら—まら—てまら—まら—まら—
まら—まら—ゆら—まら—まら—
まら—まら—ゆら—まら—まら—

後一終あべ一はなれよりりてせんごくと
けつらんやとり陳者ぬん中とくおがし終て
うげらまうれからよほしてとんと死して
ゆいぬ陳者ぬ幼来やたぶらきととあははら
て考りおこしぬあさゆあうつむじきれい
るまうつあてや一あひくうがてとせ
はれくれぬ者ぬのおやううまのあもあてわ
りあるるまうとあなれいひあひしてとら
ごうびあつりさせんしあけぬの者ぬ一く
ていあつて考約してあうとあまや一あつた

海にれるやう一あひつるせよあうてせん
るまうるるうてとせよ自害せん一け
ゆ人親もおごうさあそまてそれうらなうあ入
のりとりあはらうて廿八年がるまうとあ
や一あひ考りてつてとてあはらうあまう
てとらあくまはれからようとの田たんちんやあはら
まてまこしとらうらうちうらてあつてあら
くうらうや考ぬのらうただひまはらうら
るれまのちまうら一あひあひうら白女
あはらうらうらうらうらうらうらうら



唐の侍奉天の實氏よりいれじとわあひげして
 わいづきもはらうとせよとせよとせよとせよと
 ちんぎりありたりとわあひ十九味十六のて天
 下みぢれ乱婦人その雲へもれつりなれはいつても
 らよさうてまげゆさそびむとあぬとつとあ
 のりの中よかかれ者もつれ川かあつとさるれ
 けりつとつとゆさそびれはまごうてゆさそび
 ちんぎりあつとまごうてあつとあつと今はたよ
 度へつとまごうてあつとあつとあつとあつと
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

ゆりー路めーどーうーはは見事あいのうおたごの
よあーさあひてあふまのうーさーさーさー
あまあひ

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of the Japanese text on the left page. The text is dense and fills most of the page.

てやさしと又わてあいのふおたごーたのーさうり
兄の揚橋年をてはよあひてかうーあれあれの
揚橋とてりて肉あつてせおとさうーたの
ふりーさーそのあふさうかひたうさう兄あ
がーあささうさうさうの娘よのかりさうさう揚橋
おき兄のりーあ作ーさうあ兄を命ー後
ふさああさうさうあさあさうーああおたごてはた
くれまてあさあさあさうさうさうさうさうさうさう
らさああさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

Handwritten text in the left margin, possibly a page number or reference.

Handwritten text in the left margin, possibly a page number or reference.

地をたういふつりものひ 数年別あゆし
か又らあ(立)ゆりま(こ)あひたる(と)ぞ
鄧彼あ(ま)か(伯)道(晋)の大(長)く(永)赤(の)れ(ふ)あり
ゆ(き)ら(る)時(書)子(を)年(る)に(の)せ(山)け(ら)る(が)年(半)ら
ま(て)し(と)し(れ)れ(れ)子(と)こ(の)子(と)も
ふ(の)せ(も)あ(ひ)て(ま)げ(ら)る(と)あ(と)り(ま)り
に(も)ち(け)二(人)の(み)あ(り)る(と)も(は)ん(の)ま(り)
つ(と)あ(り)る(と)伯(道)ま(は)に(ひ)ら(る)ふ(と)の
子(ま)あ(ひ)ゆ(け)む(く)あ(り)る(と)な(ら)れ(ぬ)ぬ
人(ま)あ(り)る(と)あ(と)り(二)人(な)ら(る)あ(ひ)る(と)

り(の)あ(り)る(と)け(あ)い(た)ま(と)そ(ぐ)く(あ)り(ぬ)
その(子)細(い)う(あ)ら(る)あ(り)る(と)身(は)命(と)そ(れ)
ら(り)さ(れ)ま(も)死(一)れ(は)げ(あ)い(た)る(れ)ぬ
あ(と)た(ゆ)り(と)り(の)物(也)れ(く)い(の)ら(る)あ(り)る
へ(る)ら(又)ま(れ)あ(る)り(も)あ(り)る(と)れ(は)命(と)そ(れ)
り(ま)ら(る)べ(一)し(り)か(れ)あ(り)る(と)ま(れ)る(と)り(と)
あ(り)る(と)れ(下)あ(り)る(と)あ(り)る(と)あ(り)る(と)あ(り)る(と)
て(う)け(の)び(ま)り
○ 晋(元)成(寧)年(中)天(下)は(夜)病(を)あ(り)て(死)する(と)れ
あ(ひ)た(一)度(衣)が(見)も(あ)ら(る)あ(り)る(と)あ(り)る(と)あ(り)る(と)

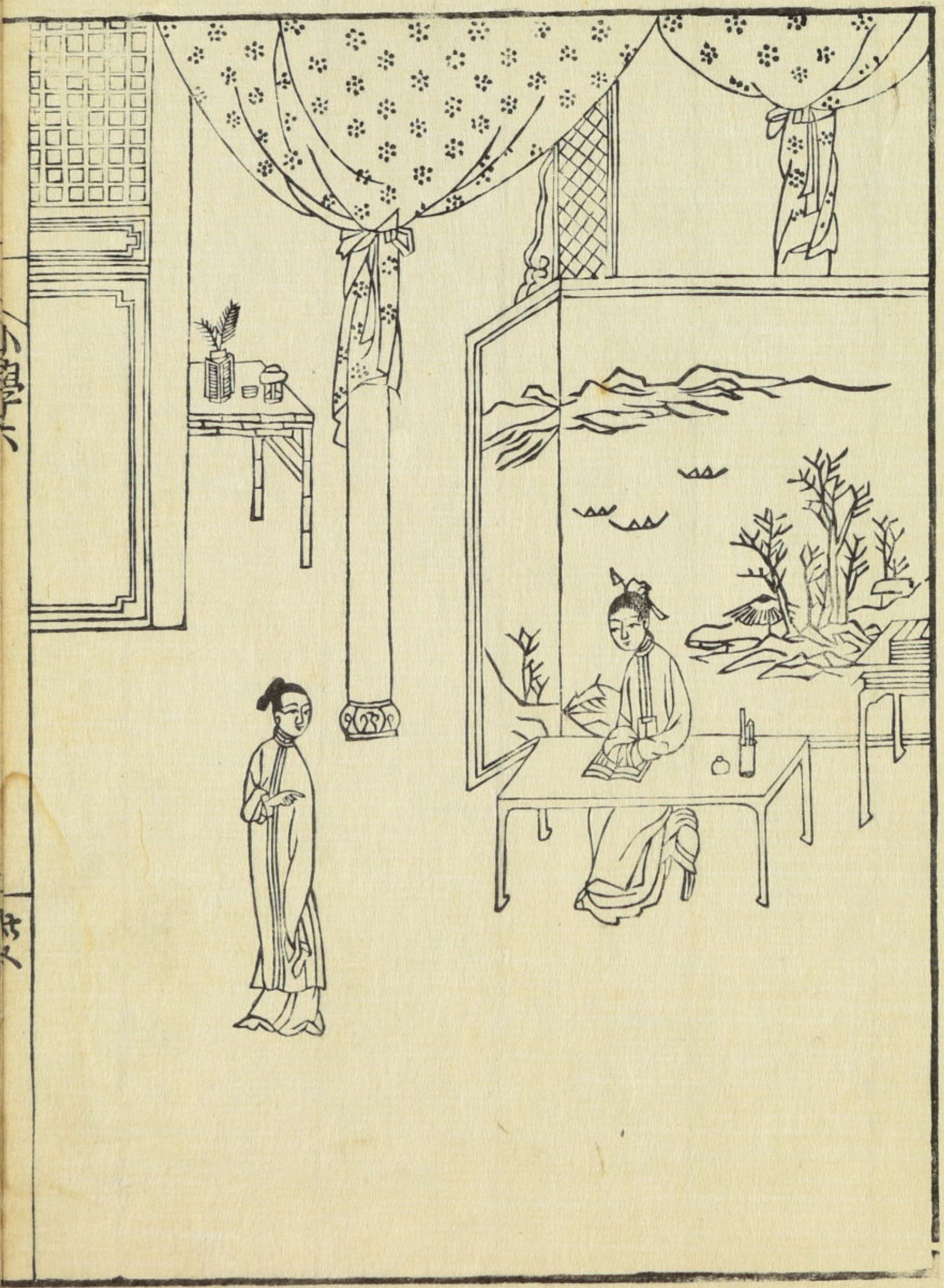
兄又おもしろくやいづらういふれはづらうそまうんか
てお肉のくこころくくあわてつるさうりつる
よ。更衣一人あはさうまう兄で看病して登衣さ
らよおろろいびくおれいあつらひつるの言
あまういそそ兄の痲病もるんあう平愈し度
衣もつがかりつるあん

元魏の揚椿揚津は守中として毎日お約よ
つもおろそこの度あはおあつらう終日お射して
さういひつる一程の合おまてもあつらうさ
まはららむど度あ次のつらういひけるさ

とてうらつれら射はづらうそまうんか
てやさう又おてあいさりおおれ一たのしつる
兄の揚椿年をてはよあひておろろあ
揚津もてりて肉あつるせおもさう
おろろいそそそのおおとつらういひつる
がうあつらうそそつらうのほよのかりつらう
おお兄のかりつらうお兄を命に給
はさるあつらうよ度せは兄もあおれひて目た
くれまてあつらういひつらうもつて合おもむく
らよあつらうお兄の御膳とらう合おのあん

いよごころあるわうころそそあまのせ見合をせ
うし命し終ひてなほも又合し終りけり
そのうち揚律ハ舞列しりあふのも獲はゆれ見
の揚律ハそのまうなつよあられくるよ牙のかこよ
つとあつても討の事おつづつと病あれた女さふ
て見のめくさうしてそのうちれも又書紙し
らりごころさうりあつていまごころのころそ
くるもさうさうりあつてもそのまれさうさ
とさう。家の内よ心代のもれ一門眷属こころ
くうりあひあつまうさうて百人牛もさうけり

が物いひごととさうさうさうさうさうさうさう
隋の使部尚書牛弘の牙牛解ハ碎粗くるりくらが
あつ討ゆは碎て。見の車よけらうと牛と。あまれま
ま射ころせり。見の車よけらうと牛と。あまれま
くけくくとつげなれハ牛弘さうなつてのよもそり
そのうちさうさうさうさうさうさうさうさう
くさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ひさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あまれと射ころせり。あまれはさうさうさうさう
とせりくけり。あまれはさうさうさうさうさうさう



一々それハさきふもさうそてあつてきつるもふと
 うらみあつてげんりつひそつこの影グミさうそて書
 物ウツさうそつれつうそて

○倉の李勣ハ大位の位より降りたりともまきりかきり
あしとらむもあはのやむ時ぞあまのせ
んとて見づつ一火とまきて粥とあられを火
のよとびてひげとやれらるあはのこれと見たまひ
てみこれのものもあはさまいふあしとくり日若
芳とらそとほくれハ李勣とられたるは後を
よそふさうくともつらくあひいさうらにあは
らむをひかれもさうりたれだごいよあはれ
いのらむはらうらむとらあまのてさうか
くさうりたうらむあま粥とにらあはらむ

るあうらむこれとあまんとられだごいよあうら
粥とまきとたてまらうらむのまんとく
これよとらむとてられらる

○司馬温公兄の伯康と申うくしてあまひはら
へ給あまのまらあし伯康とてまひとてあ
ハキよまひ給くハ温公これよつら給あまの父よと
るらむとまらやまんとらあまのひけるまらま
とまらうらむとらあまのあまのあま
ひとてあまのあまのあまのあまのあまのあま
うらむとらあまのあまのあまのあまのあまのあま

てさびしくいなりゆきなりとよひ終りてぞ
 包者肅然の徳目代せしれくつ射あつ人きこり
 らうくくつらざれば全百支あつけおさくつら
 わりーごその人あぢやよお果つらゆんそのよに
 えんとすまひそのよあゝつらつらなればご
 よあゝんそそけとてび飛つらのみそやあ
 終ひげとらやよ終りけしれ終れといふより
 づそまごそのよややーたつのはあよせまあつげ
 きこつらつらつてぞまひつらととととつらつら
 せびつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

わよ落着きせざりくれハ呂蒙云けりや安らび終ひ
 ぐくやーき物のぐくつらあつらハ地地の音性
 あつられつらあつらつらつらつらつらつらつら
 古人のつらつらつらおのひあつらつらつらつら
 感極一終いつらつらつらつらつらつらつら
 漢のそ書ハ年をて隠者一くれとも内裏れつら
 とつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 きげつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 官人つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

くしてそ射^ひむせしれたる。子孫^{しそん}の内も。あやま
ちまらぬあま^あま^まら^らてこれとせめそ。して
してだごうま^まとひづめ^めひて。ひめ^{ひめ}の^の合^あ解^{かい}と
くひ^{くひ}ひ^ひの^の子^し孫^{そん}よりあひ^{あひ}難^{なん}候^{こう}して。あ
わやま^あら^らせし。その^{その}さ^さい^いま^まめ^めの^のく^くあ^あま^ま今
より^{より}あ^あま^まら^らんと^と再^{さい}三^{さん}と^とひ^ひの^のま^まは^はひ
る。一^一終^{しゅう}ひ^ひて^て合^あ解^{かい}と^とひ^ひの^のま^まは^はひ^ひの^のま^まは^はひ
肉^{にく}と^と一^一た^たけ^け冠^{かん}き^きと^とあ^あま^まら^らせ^せられ^れは^はひ
冠^{かん}き^きと^とあ^あま^まら^らせ^せられ^れは^はひ^ひの^のま^まは^はひ^ひ
く^くけて^てづ^づの^のま^まは^はひ^ひと^とせ^せられ^れは^はひ^ひ

と。一^一又^{また}あ^あま^まら^らり^り合^あ解^{かい}と^とあ^あま^まら^らせ^せられ^れは^はひ^ひ
か^かあ^あま^まら^らせ^せられ^れは^はひ^ひの^のま^まは^はひ^ひの^のま^まは^はひ^ひ
合^あ解^{かい}と^とあ^あま^まら^らせ^せられ^れは^はひ^ひの^のま^まは^はひ^ひ
つ^つづ^づと^とあ^あま^まら^らせ^せられ^れは^はひ^ひの^のま^まは^はひ^ひ
あ^あひ^ひつ^つと^とあ^あま^まら^らせ^せられ^れは^はひ^ひの^のま^まは^はひ^ひ
これ^{これ}と^とあ^あま^まら^らせ^せられ^れは^はひ^ひの^のま^まは^はひ^ひ
と^とあ^あま^まら^らせ^せられ^れは^はひ^ひの^のま^まは^はひ^ひ
門^{かど}の^のま^まは^はひ^ひの^のま^まは^はひ^ひ
く^くら^ら肉^{にく}史^しの^の官^{くわん}の^のま^まは^はひ^ひ
史^しの^のま^まは^はひ^ひの^のま^まは^はひ^ひ

る也。志つるふりま車の内よゆつるふ者にてあり
ざつら。礼よそむくつらとそで尸されつら

○夜奮りもつる建つら。ぎらめて考ひるり。一人也つら郎

中令の官よりり。年もあつくをられつら比まで

父のる奮つらそくさるりつらつら。る建つらめつらつら。つら

あつらつら。海つらつら。海つらつら。つらつら。つらつら

つらつら。父のるさつら。つらつら。つらつら。つらつら

つらつら。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

つらつら。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

つらつら。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

つらつら。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

あつらせ。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

○僕つらの流つら廣つらハ宣つら帝つら此つら大つらのようつら。太つら傳つらの官つらよつらのつら

つらつら。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

つらつら。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

つらつら。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

つらつら。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

つらつら。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

つらつら。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

つらつら。つらつら。つらつら。つらつら。つらつら

のこゝして所^てぬ^きく^らた^まい^のよ^みて^らん
お^りの^こら^のよ^みて^らん^のよ^みて^らん^のよ^みて^らん
む^らく^のよ^みて^らん^のよ^みて^らん^のよ^みて^らん^のよ^みて^らん
け^いの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
孫^のの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
ま^まの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
ひ^ひの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
ら^らの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
し^しの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん

が^がの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
や^やの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
と^との^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
つ^つの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
正^正の^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
さ^さの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
ま^まの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
ひ^ひの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
と^との^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん
は^はの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^んの^よみ^てら^ん

ノ
ニ

一
解



こころいさくけりもみどりうりんくさくさ
 やあられいさくけりもみどりうりんくさくさ
 ゆべきよあられいさくけりもみどりうりんくさくさ
 やあられいさくけりもみどりうりんくさくさ
 てゆきよあられいさくけりもみどりうりんくさくさ

○漢の麗リウハ官クワンよりんごてうづつ新シン地ヂのほろり
 てもして書シひのふ田テン其シて居イるうた
 別リウ表ヒョウもやるてとられん母ハハりよるもさしよみ官クワン
 よつ入イ福フクよけてお孫イサナのさあてけつるよぶあつて
 が自ミコ新シン地ヂの苦ク勞ラウとあてお孫イサナをうつし
 る年トシもくられ麗リウハ登トビ々ツツる世セ人ジンいあははは
 あやうもさしてと今イマもれびのいほもあは
 とつてとさしてくられ別リウ表ヒョウさつてむあり
 とて感カン嘆タンあつてうづつるうとてあやうもさ
 するものおとろやうもさといひあはれとらう

そのちうとけとばのさるもさる
 ○昔ムカシ陶トウ例レイ明メイ敷シ澤タクくいの今イマもらうて
 みのうと下シタ終ハハつてものほへんあつてあ
 りさういふうらな母ハハあさゆかのあつて
 はしひつるものうとあつてとあひひつる
 ものちうとけとばのさるもさる
 るさしひつるもさるもさる
 りつとあつていふのほへんあつてあ
 とあつてとあつてとあつてとあつてとあ
 づるうけさだべと終ハハて又マタ人のあつてあつてあ

ハズリケルコト

○主君ハ平生以儀ヲ一と云ふ人ナレハ公孫のとも
ガシモ名冠たててせざればいざやゆらぎあは
じく美の内よ若狭の時も新羅の公儀よ若狭の時
のよそぢひよこしるしに歌やあさむらうの物候
葦怒の口をれおしへておしるひ歌やたづぬよん冠
婿喪糸の口をれおしへておしるひ歌やたづぬよん冠
と幾人さる衣袋と札のうらま物とらんようしとて歌
若狭の口をれおしへておしるひ歌やたづぬよん冠
く門巷の地より樹木よりゆらぎあはのうらま物とらんようしとて歌

つとていよしてどくくもゆらぎひのよとまきく

○唐の此公孫ハ五代の乃門眷属ひつら歌よとてあ
麟徳年中よかてけけるくも。この字を唐の唐が
歌ひの音ありて勅録し終るハ親親の中も年久
しき内ありたるは口舌もあるゆるふ。海もあは
まて回若して歌あさむらうのおまきくしひのよとま
りていよて奇物ありさうごめて一族よおまきくし
ひのよとまきくしひのよとまきくしひのよとまきく
紙とわ制し。歌よひの字と百あまのうらまきくしひ
てまきくしひのよとまきくしひのよとまきくしひのよとまきく

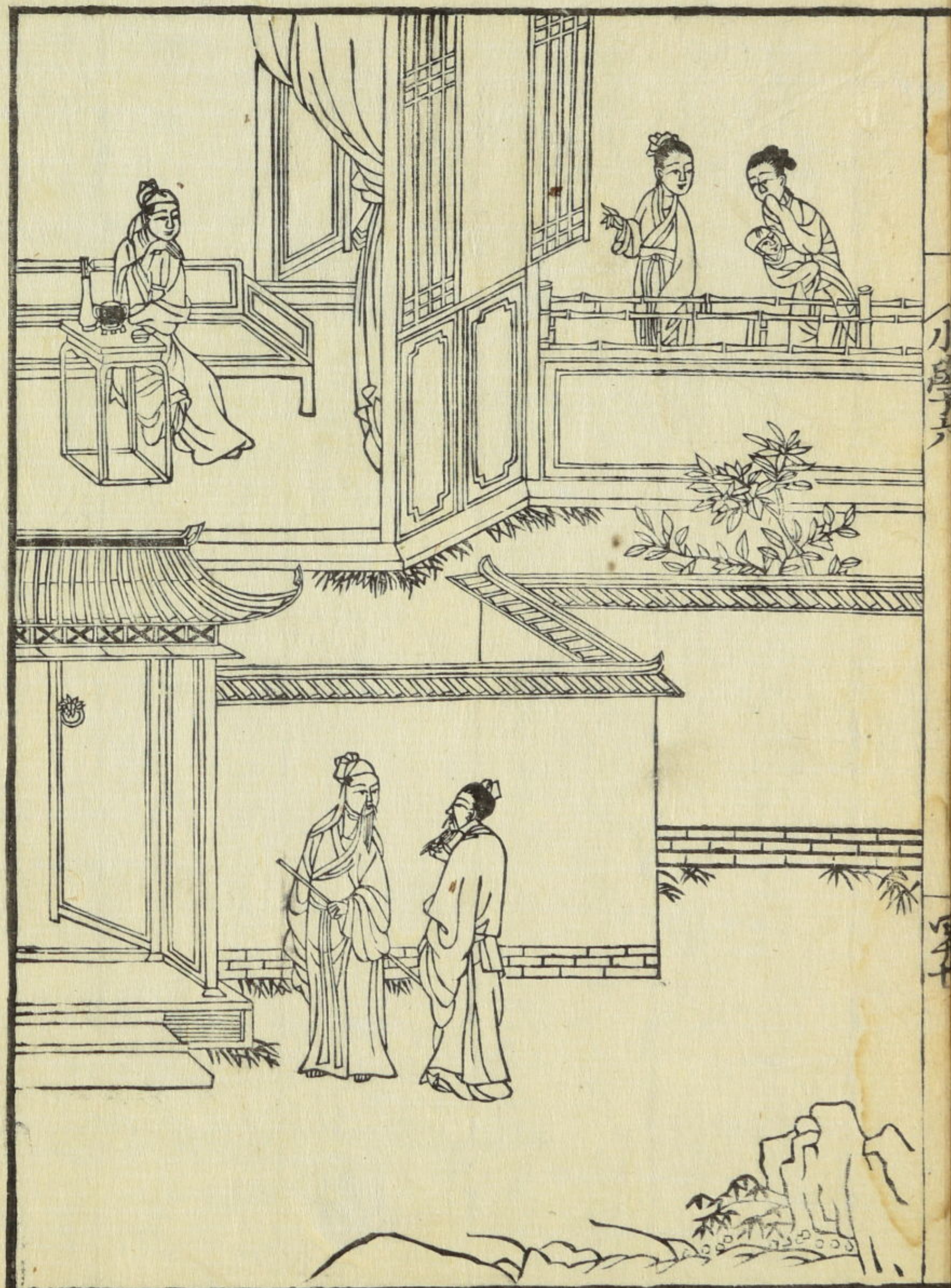
のちとゆりのけがまきしふあつこくくまお睦
はらるる理あり

○ 倉の葦るる六隠通してぬまぐーえんともるま
あつこく入りくれはひら八田やたやー夜六さ文
して毎日おここくびぶよりりて本とこりあまよ
のそこて臭とこり父母よたてまうりてどり
うらやーよ者者女ーなりちうーんをそて書
ひとひうーんこく一仇きのろーもまぬれ
ーめくろゆ人父母もよりこびひ書あまうーん
げいひるうりうりがう者意のおこるひと通感

海一 くらわわあまーまきり本あまりたあまよ
飼あくる犬みうーんくらに親犬こくーあひけ
るあま犬みらい物やりしむ六鷄さうりて虫とも
やついこもあつめて意のこまあまーんうーんめ
くらあまうらふさう射の鷄うらーもさうてクー
くらいぶつぞさこて意のこまおあひ親犬のゆ
まてまらちあまうらそ
○ 倉の柳も練ハあはたたくくーおつろん也あの中
門の東よあこりてさう又あやたておさそ本社の白
の外よああお天うりうらあああひて松の男と

弁一客人よまのりり骨ともあも兼合して具
らうく申でそのおとさうい燭いこれハお籍より
よせごうくこれやうしてさそ官よつらうるお
やおさむらほるうとて儀編一ほい戒ハ又たのりよ
編一戒ハおとるうとて引てんやたのりよ
よきうそ編よくゆりう一ほようくのいよきう紙
年餘中てごもかりうさう一也節彦使官よ
そふりうほハおとりのりうくこれとも世の中
よこ年るのいよAよらうは蔬合や用いさせて
まらうるむり一亡父丹列の中も後志ほい一はおま

づりうこれともこれ一足骨のみごもいさして
業未熟るうとてつのは蔬合らうりや用いさせて
ひてゆらうは奥名の肉や合らうりやゆり一ほら
これよるういさうりてこれ又ゆりやりおま
そごそさう也とていされらう又おごあひのり
とめいるごらひ物の肉よいけるよ一て父よんお
とて又いさうたうらうとてやめおごいある人あれお
とれとめごててむらやあうとてあんよつけいれ
くらが措得るう衣取法をくやとらうとていご
アあひのそさうありうそあひとてまうらわあ



〇ある名の陳^{ちん}襲^{しゅう}がぬい十代のる法^{よん}親^{しん}親^{しん}ひとる都^{みやこ}は
 て。門のくく七百人よ及^{およ}下^{した}り給^{たま}父^{ちち}の食物^{じきじゆ}の時^{とき}は
 八ひろきさむし一^{ひと}りや志^しき^き治^ち束^{すく}くよるる者^{もの}て
 いろりその家^{いへ}よ飼^{かひ}垂^たる大^{おほ}百^{ひゃく}あまなりありける
 がげたどもよ食物^{じきじゆ}やあそゆるも。多^{おほ}くよひとあま
 てくらせくるよそのおしよも一^{ひと}延^{のび}ても
 来^きるぬ大^{おほ}あまのころ大^{おほ}どもくらくらでま
 ちけりする人^{ひと}ぞれ陳^{ちん}氏^しの徳^{とく}よ畜^{ちく}親^{しん}まで感^{かん}化^げはる
 よあそむや。それよりほも子^こ孫^{そん}ながく同^{どう}居^きり
 て家^{いえ}給^{たま}の時^{とき}は十八^{じゅうはち}代^{だい}のるおまこころ

ひらり家よまじくこころとて
○宗の李相勝の家。子孫数代同者して。二百人あま
つもおよぐり。田代よりおらむらあのみるりといひ并よ
官よつりありの。借録あまぞ。まけへとてあく。
こしくをひと。あまよれまき。それくみ入
まごいよつりせくる。奇特るり。終るりといひ。司
る。感とふ感。い。終るり

右実明倫

